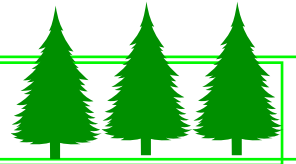




みつぎ便り



第237号 6月号 令和8年6月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



クロウリハムシ

うーん。今回はクロウリハムシかあ。名前は知らなくても見たことある虫かもしれません。ネットで調べ写真を見ると、確かに見たことがある虫です。葉をちよつと揺るとすぐ飛び立ってしまつたのを思い出しました。

六ミリから八ミリぐらいの大きさで、前はねは黒く頭部・胸部・腹部がオレンジ色がかつた黄色でおしゃれな虫です。越冬した成虫が四月ごろから飛び始め、そろそろ産卵の時期となります。

幼虫はウリ科の植物の根の近くの地面に産みつけます。集団越冬する前の十一月ごろまでがクロウリハムシに出会うチャンスです。いろいろな葉を食べますが、特にウリ科の植物を好むほか、ダイズやフジ、カー



ネーションやナデシコの花も食べるそうです。

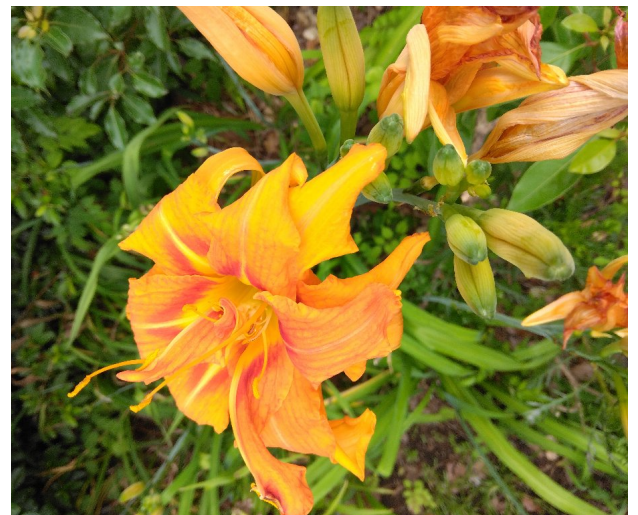
見次公園にはキカラスウリが繁茂しています。葉が円形状に食されていたら、きつとクロウリハムシの仕業です。もしくはナデシコ科のダイアンサスが植えられている花壇でクロウリハムシを見つけられるかもしれません。(敦)

ヤブカンゾウ

ヤブカンゾウの原産地は中国で、北海道から九州まで分布しています。野原や山麓、藪などに群生しており、湿つた場所を好みます。見次公園ではポンプ小屋のバス道路沿いに見ることが出来ます。

多年草でランナーを出して広がり草丈は八十センチぐらいになります。葉は狭長で利尿剤に、若芽は食用になります。花は七月八月に百合に似た八重咲きで、橙色の花を次々に咲かせます。朝に開花し夕方にしぼむ一日花です。

また、花と蕾は食用にでき、蕾は熱冷ましを生薬にもなります。根は黄色で末端は塊状であり、葉と同じく薬用になります。別名をワスレナ



グサ、カンゾウナと言います。有史以前に帰化した植物で新芽は茹でるとぬめりがあり、美味しく山菜として人気がありますが、公園の植物を勝手に取つてはいけません。

ところで公園の池で鴨の子が産まれました。当初は十二匹居て母鴨に寄り添って可愛い姿を見せていたのですが一週間、十日と過ぎるうちヒナの数は次第に減つてゆき、最近では(五月十九日現在)四羽となつてしまいました。自然の摂理とはいえ厳しい環境ですね。でも残つた四匹は身体もずいぶん大きくなりました。このまま無事に成長してほしいものです。(重)